



HEIWA PAPER



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月9日

上場会社名 平和紙業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9929 URL https://www.heiwapaper.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 清家 義雄
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理統括本部長 (氏名) 高木 修 TEL 03-3206-8501
 四半期報告書提出予定日 2022年8月10日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	3,729	1.7	△24	—	△2	—	780	—
2022年3月期第1四半期	3,666	18.4	△19	—	△9	—	△13	—

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 847百万円 (—%) 2022年3月期第1四半期 △116百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	80.95	—
2022年3月期第1四半期	△1.38	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	17,056	9,329	54.7
2022年3月期	15,766	8,530	54.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 9,329百万円 2022年3月期 8,530百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	5.00	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,000	8.8	72	△55.5	130	△2.7	874	901.6	90.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	10,116,917株	2022年3月期	10,116,917株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	474,195株	2022年3月期	474,195株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	9,642,722株	2022年3月期1Q	9,642,722株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策と経済回復の両立が進みました。行動制限の緩和による個人消費の回復を背景に景気は緩やかに持ち直している一方、中国やウクライナ情勢等によるサプライチェーンの停滞や原燃料価格の高騰、円安等によるコスト上昇の懸念が今後の景況感を下押ししています。

紙パルプ業界におきましては、包装パッケージ用途の需要は堅調に推移しているものの、デジタルシフトによる構造的な印刷・情報用紙の需要減少や、原燃料のコスト上昇に伴う製紙メーカー各社の価格改定の影響もあり、紙・板紙合計での国内出荷量は、前年同四半期実績を下回りました。

このような中で当社グループは、リモート活動を併用しながら営業活動を再強化、需要の変化に対応するため幅広いお客様との商談機会の増加に努め、基盤商品である高付加価値特殊紙の販売強化に注力しました。また、新商材やアップサイクル商品の企画開発等の新たな需要開拓、SNS、ホームページ等でのSDGs活動事例を含めた情報発信を積極的に行い、脱炭素社会に寄与する商品の開発・提案活動を進めています。

業績においては社会経済活動、イベントや観光が再開する等の需要回復と、商品の価格改定及び情報伝達媒体のデジタルシフトによる需要減少が相まってコロナ禍以前の水準までは回復せず、前年同四半期並みの実績となりました。

不動産賃貸においては、名古屋地区にて保有している固定資産を特定の資産を買い換えることを条件として譲渡し、特別利益11億33百万円を計上いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高37億29百万円（前年同四半期比1.7%増）、経常損失2百万円（前年同四半期は経常損失9百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は7億80百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失13百万円）となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメントごとの経営成績は、次のとおりです。なお、以下の数値はセグメント間の取引消去前となっております。

<和洋紙卸売業>

和洋紙卸売業は、新型コロナウイルス感染症の影響は続いているものの、社会経済活動の回復、行動制限の緩和によりイベントや観光等の国内需要が回復、高級パッケージ、紙製品、東アジア地区向けの販売が堅調に推移、価格改定等による需要足踏みの影響もありましたが、売上高は38億81百万円（前年同四半期比2.0%増）、営業損失は25百万円（前年同四半期は営業損失26百万円）となりました。

<不動産賃貸業>

不動産の売買、賃貸借、管理及び仲介で構成される不動産賃貸業は、2021年9月9日に「固定資産の譲渡及び特別利益の計上に関するお知らせ」にて公表しましたとおり、時間貸駐車場としていた土地を特定の資産を買い換えることを条件として譲渡したことにより不動産賃貸収入が減少し、売上高は4百万円（前年同四半期比46.7%減）、営業利益は3百万円（前年同四半期比47.5%減）となりました。

(参考)

当社単体の和洋紙卸売業の営業成績

品目別	前第1四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)		当第1四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)		増減率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
ファンシーペーパー	765	22.1	797	23.1	4.3
ファインボード	390	11.3	411	11.9	5.2
高級印刷紙	765	22.1	788	22.8	2.9
ベーシックペーパー	1,015	29.3	945	27.3	△6.9
技術紙	487	14.1	466	13.5	△4.3
その他	42	1.1	50	1.4	19.7
合計	3,467	100.0	3,459	100.0	△0.2

[ファンシーペーパー]

多様な色、表面性、風合いを持つ高付加価値特殊紙のファンシーペーパーは、コロナ禍における経済活動の安定傾向に加え、リモート、SNS等での販売促進活動の継続効果も伴い、手帳、アルバム関連等の紙製品や製袋用途の販売量が増加し、売上高は7億97百万円、前年同四半期比4.3%の増加となりました。

[ファインボード]

ファンシーペーパーの厚物(板紙)であるファインボードは、インバウンド、各種イベント需要の減少による影響が未だ継続するも、商業印刷物用途や化粧品・和洋菓子等の高級パッケージ向けの販売量が徐々に回復し、売上高は4億11百万円、前年同四半期比5.2%の増加となりました。

[高級印刷紙]

独自の風合いを持ち、通常の印刷用紙より高価格帯の高級印刷紙は、商業印刷物やパッケージ用途の販売量が伸び悩みましたが、ハガキ・封筒等の紙製品や製袋用途が増加し、売上高は7億88百万円、前年同四半期比2.9%の増加となりました。

[ベーシックペーパー]

上質紙、塗工紙、色上質紙等の印刷用紙、包装用紙、各種板紙等で構成されるベーシックペーパーは、一般パッケージや東アジア向けの輸出が堅調に推移しましたが、商業印刷物、出版、紙製品用途の販売量が減少し、売上高は9億45百万円、前年同四半期比6.9%の減少となりました。

[技術紙]

通常の紙にはない特殊機能が付与されている技術紙は、合成紙の販売量が堅調に推移したものの、耐水撥水性機能紙及び各種工業品製造用工程紙の販売量が減少し、売上高は4億66百万円、前年同四半期比4.3%の減少となりました。

[その他]

家庭紙、紙加工品、製紙関連資材等で構成される当区分では、製紙関連資材、紙加工品の販売が減少しましたが、観光需要の緩やかな回復に伴い各種家庭紙の販売が伸長し、売上高は50百万円、前年同四半期比19.7%の増加となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて12億89百万円増加して、170億56百万円となりました。主な要因は、現金及び預金1億55百万円、受取手形及び売掛金1億97百万円が減少したものの、商品4億40百万円、有形固定資産11億36百万円が増加したことによるものであります。

(負債)

負債は、前連結会計年度末に比べて4億90百万円増加して、77億26百万円となりました。主な要因は、賞与引当金72百万円が減少したものの、支払手形及び買掛金1億51百万円、短期借入金1億62百万円、繰延税金負債2億46百万円が増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて7億98百万円増加して、93億29百万円となりました。主な要因は、利益剰余金7億32百万円、為替換算調整勘定59百万円が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2022年5月13日の「2022年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2023年3月期の連結業績につきましては、以下のとおり見込んでおります。

売上高	17,000百万円	(前期比	8.8%増収)
営業利益	72百万円	(同	55.5%減益)
経常利益	130百万円	(同	2.7%減益)
親会社株主に帰属する当期純利益	874百万円	(同	901.6%増益)

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,317,458	3,161,546
受取手形及び売掛金	3,903,048	3,705,254
電子記録債権	1,224,173	1,350,607
商品	3,619,306	4,059,778
貯蔵品	57,415	55,073
その他	106,604	100,441
貸倒引当金	△11,224	△12,201
流動資産合計	12,216,780	12,420,500
固定資産		
有形固定資産	809,560	1,945,894
無形固定資産	57,659	53,349
投資その他の資産		
投資有価証券	2,267,901	2,281,768
その他	415,726	355,816
貸倒引当金	△1,150	△1,150
投資その他の資産合計	2,682,478	2,636,434
固定資産合計	3,549,698	4,635,678
資産合計	15,766,479	17,056,179

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,335,443	4,487,030
短期借入金	2,126,258	2,288,370
未払法人税等	82,621	51,226
賞与引当金	96,333	23,657
その他	183,091	210,526
流動負債合計	6,823,747	7,060,812
固定負債		
退職給付に係る負債	244,944	254,244
資産除去債務	69,271	69,566
繰延税金負債	—	246,951
その他	97,816	95,014
固定負債合計	412,032	665,776
負債合計	7,235,780	7,726,589
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,107,843	2,107,843
資本剰余金	2,331,387	2,331,387
利益剰余金	3,826,754	4,559,161
自己株式	△218,677	△218,677
株主資本合計	8,047,309	8,779,715
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	424,611	431,419
為替換算調整勘定	58,778	118,454
その他の包括利益累計額合計	483,389	549,874
純資産合計	8,530,698	9,329,590
負債純資産合計	15,766,479	17,056,179

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	3,666,838	3,729,562
売上原価	3,004,928	3,007,390
売上総利益	661,909	722,171
販売費及び一般管理費	681,177	746,676
営業損失(△)	△19,268	△24,505
営業外収益		
受取利息	2,091	1,731
受取配当金	34,671	33,098
為替差益	—	1,382
助成金収入	33,812	10,151
その他	1,665	952
営業外収益合計	72,240	47,316
営業外費用		
支払利息	1,651	1,769
為替差損	143	—
売上割引	741	858
休業手当	58,887	22,197
その他	625	478
営業外費用合計	62,047	25,304
経常損失(△)	△9,075	△2,493
特別利益		
固定資産売却益	—	1,133,083
特別利益合計	—	1,133,083
特別損失		
固定資産除売却損	—	1,687
特別損失合計	—	1,687
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△9,075	1,128,902
法人税、住民税及び事業税	1,989	45,118
法人税等調整額	2,245	303,162
法人税等合計	4,234	348,281
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△13,310	780,620
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△13,310	780,620

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△13,310	780,620
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△104,446	6,808
為替換算調整勘定	1,135	59,676
その他の包括利益合計	△103,311	66,484
四半期包括利益	△116,621	847,105
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△116,621	847,105

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りの仮定につきましては、前連結会計年度の有価証券報告書の重要な会計上の見積りに記載した内容から重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	和洋紙卸売業	不動産賃貸業	合計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	3,660,027	—	3,660,027	—	3,660,027
その他の収益	—	6,811	6,811	—	6,811
外部顧客への売上高	3,660,027	6,811	3,666,838	—	3,666,838
セグメント間の内部売上高又は振替高	146,601	2,135	148,737	△148,737	—
計	3,806,628	8,946	3,815,575	△148,737	3,666,838
セグメント利益又は損失(△)	△26,613	7,289	△19,324	56	△19,268

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額56千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	和洋紙卸売業	不動産賃貸業	合計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	3,726,931	—	3,726,931	—	3,726,931
その他の収益	—	2,631	2,631	—	2,631
外部顧客への売上高	3,726,931	2,631	3,729,562	—	3,729,562
セグメント間の内部売上高又は振替高	154,087	2,135	156,223	△156,223	—
計	3,881,019	4,766	3,885,785	△156,223	3,729,562
セグメント利益又は損失(△)	△25,778	3,823	△21,954	△2,550	△24,505

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△2,550千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。